

大津町議会 広報編集特別委員会行政調査

氏名 田代 元気

視察研修名：大津町議会広報編集特別委員会行政調査

視 察 先：①奈良県王寺町 ②鳥取県大山町 （両日ともオンライン）

期 日：令和6年8月19日（月）～20日（火）

研修テーマ：議会だより編集について

研修報告 意見・感想

奈良県王寺町の議会だよりは、昨年、職員の異動を機にリニューアルされました。リニューアルにあたり、編集方針を（１）町民の参加、（２）議会に関心を持ってもらえるためのツール、（３）読みやすいレイアウト、（４）文字を少なく写真を多く、と決めターゲットとコンセプトを定め、議会だよりを作成していました。議会事務局職員の村田様は、異動前は町の広報担当として業務を行っており、多くの広報誌コンクールで賞を受賞されており、その手腕を発揮され、議会だよりの編集にも携わっておられました。

率直な感想としては、議員が中心となって編集するのではなく、職員が作っているという印象を受けました。

本町では、委員が型にはめていくという編集のため、委員の更なるスキルアップと思い切ったリニューアルでさらに発展させていくことが必要だと感じました。

鳥取県大山町の議会だよりは、編集作業を８人の委員で行い、各委員がデスクと記者に分かれ役割を分担し発行に向け編集を行っていました。

データの共有を「Line Works」、原稿の共有を「Side Books」

写真の共有を「Google drive」で使用し、委員会開催時以外にもデータの共有ができ、スムーズな編集作業を行っていました。

また、特集記事を掲載することで、目を引いてもらえるようにするなど、単なる報告紙から読んでもらえる広報誌になるよう、住民アンケートを実施するなど、精進を重ねているとのことでした。

私たちの委員会では、委員会開催時にしか自分以外の記事が分からないなど、非効率的な編集を行っていると思います。大山町のようにさまざまな媒体でデータを共有することで、編集の効率を上げ、委員のレベルアップにもつながると感じました。

今回の研修はオンラインという形でしたが、王寺町、大山町ともに、町民に読んでいただく広報誌となるよう努力を重ねていると感じました。

今回のオンライン研修をいかし、残り２号となった議会だよりですが、町民にもっと親しんでいただけるよう取り組んで行きたいと思います。